

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-29

部門名：
カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名：
みやこ町立柳瀬小学校 中 寛憲 平成 30 年度第 3 回中堅教員研修

活動名：みんなでビジョン達成
～PDCA サイクルの活用を工夫して～

解決すべき課題：
行事や集会、各取組などで振り返りを行い、来年度に生かしていくことを PDCA と理解し、実施していたので、子ども達の課題解決には効果を感じることが出来なかった。PDCA サイクルがただの振り返りになっていて、児童の課題解決に向けた計画的な取り組みになっていなかった。解決すべき課題は、目指すビジョンの共通理解ができていないこと、実践はしているが、振り返りの視点がずれていることと考えた。

目標・方針：
職員の日々の実践のベクトルの向きをそろえて、効果的にカリキュラムマネジメントを行うことを目標にした。
1 行事や各授業において行っている **PDCA の違いを整理**する。
2 ビジョン、取り組みの**柱を共通理解**する。
3 PDCA を**活用する機会を確保**する。
4 行事、集会、授業の中で、それぞれに**応じた PDCA を実施**する。

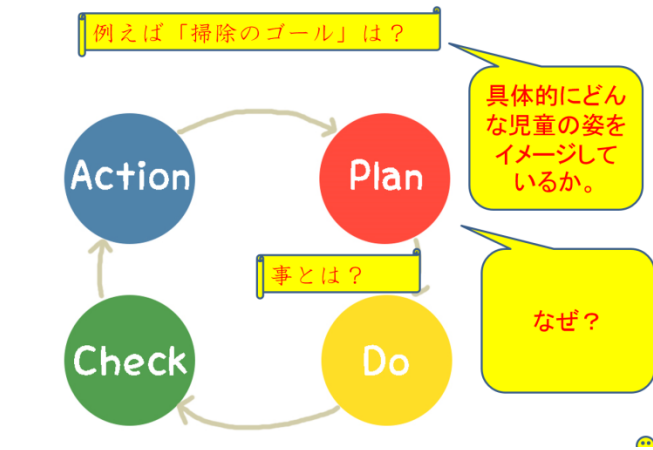
活動内容：
1 校内研修の充実
(1)PDCA サイクルについて (図 1)
①行事、集会においてのこれまでの PDCA サイクルは、主に運営上のサイクルであって、見直しの視点も次年度のための C と A であったこと。
②授業の PDCA サイクルは、毎時間、具体的にビジョンを設定し、授業プランを立て、授業を行いながら、または、授業後に振り返り◎と改善(A)を考え、次時(PD)に生かすということを行っている。
③我々はこれまでも PDCA と新たに意識しなくても行ってきたことであるが、それが成果として認識することが難しかったことを確認した。①と②を実践するときに、ビジョンの共有と取組の柱の必要性を確認した。
(2) ビジョン、取り組みの柱の共通理解(図 2)
①各教科において、柱「発表・話し合い活動」、「書く活動」を位置づけるようにした。
②標準学力検査や日頃の児童の実態から、ビジョンを「聞く・話す・書く力の向上」に設定し、「発表や話し合いの場の確保」を柱にした。
③話し合いの場の確保の 1 つとして学級活動の話し合い活動の充実をあげた。学習指導要領特別活動編の学級活動の指導の重点のポイントをまとめて、活用することを確認した。(資料 1)
④これまで、ばらばらだった集会活動や行事のねらいに柱をいれることで PDCA しながらビジョンの達成を目指すようにした。(図 2)
⑤書く活動の重点を示し、週 1 回作文活動を確保し、国語科を中とした活動を充実させた。(資料 3)
2 PDCA を工夫した学力向上プランの充実
学力向上プランをもとにして、取り組みの重点(資料 2)をまとめて示した P。この重点を元に、取り組みを行い D、学期に 2 回の C 振り返り(資料 4)を全体や個別に交流することで、A 改善を行うようにした。

活動の成果： 5 月と 7 月に実施した振り返り(資料 4)の結果から
「学級会の実施」が 6 割から 10 割へ、「学力向上に対して作成した使用すべきプリントの活用」が 1 枚から 22 枚へ増えた。作文に関しては 5 月には、「児童が毎回同じような書きぶりになっている」と書いた担任が、交流の結果、テーマの与え方を工夫するようになり、児童の書きぶりにも変化が見られた。授業改善に対しても、5 月は、「まとめを書かせる。振り返りを書き、発表させる。」と書いていた担任が「授業の中で具体的な場面を設定して、図を使って説明させるようにしている」「キーワードになる言葉を確認め、まとめさせることで、児童が自分の考えをまとめることができるようになってきた。」など振り返りの交流を生かして改善がされていることが分かる。

アピールポイント(アイディアや工夫)：
・行事や集会において、ビジョンが明確なので PDCA が連続して行われ、児童の変化が明確になり、全職員で共通理解できていること。
・学力向上プランがただのプランではなく、「振り返り活動」「交流」C を行うことで、「改善」A することができ、「個々のプラン」P、「実践」D に変化が見られ、児童の変化がみられること。

<写真、図表添付欄>

図 1 PDCA サイクルの研修資料



資料 1 学級活動の指導の重点

	低学年	中学年	高学年
知識・技能	進め方 司会・記録は教師が行う。 進め方を実際に見て理解させる	活動計画を作成(適切な指導のもと)司会は順番に全員に経験させる。	活動計画を作成(児童)効率的・計画的に運営する工夫
思考力・判断力・表現力	話す 自分の意見を言う(発表)。 聞く 他者の意見をよく聞く。 合意形成、実践 合意形成して実践することの良さを理解させる	理由を明確にして伝える。 異なる意見を受け入れる。 合意形成を図り、実践する。	自分の言葉で建設的な意見を述べる。 思いを受け止めて聞く。 相手の立場・考え方を理解したり、多様な意見の良さを生かして合意形成する。
学びに向かう力・人間性	約束・きまりを守る大切さの理解。 目標を決めて実行する。	自分の良さや役割を理解する。 よく考えて行動する。	高い目標を持つ。 根拠強く理解する。 良さを伸ばし合う。

資料 3 書く活動の取組

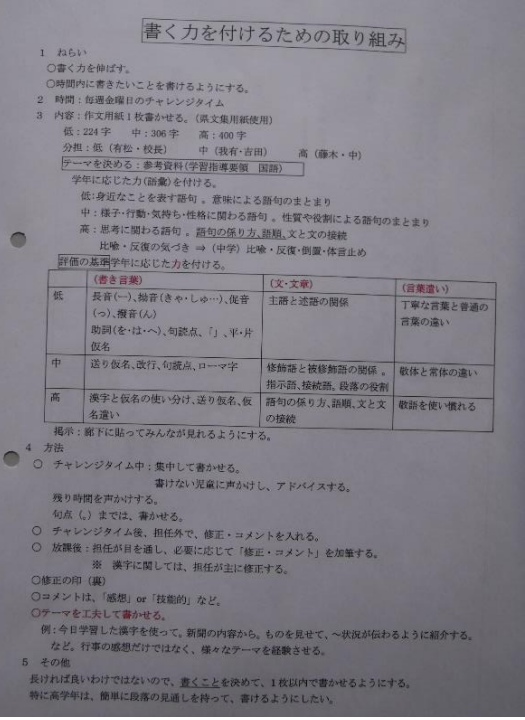
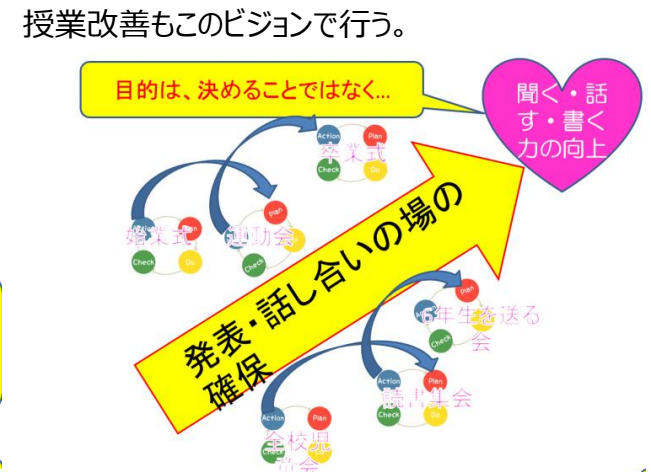


図 2 ビジョン、取り組みの柱の研修資料



資料 2 学力・体力向上取組の重点

学力・体力向上の取組
○課題のある児童のピンポイント指導 ・担任外の活用(工夫(TT))
○話す聞くに重点を置いた学習指導 ・学活を柱にする。(月 1 回の話し合い活動) ・PDCA サイクルを活用した各教科・行事・集会の工夫 ・朝の会の充実
○家庭学習の仕方の統一 学習内容の定着までが授業 ・個に応じた課題の提示(背面黒板の活用)
○チャレンジタイムの活用 ・作文指導(金)、辞書を引く活動、学力補充
○メソッドタイムの工夫 ・全校で実施
○指導力の向上 ・得意分野を生かした授業公開(主体的で対話的な深い学び)

資料 4 学力向上プランをもとにした振り返り

